

第47回 日本手術医学会総会(広島市)
論文セミナー
2025年11月15日(土) 11:10-11:50 第1会場 フェニックスホール

論文投稿のすすめと 電子ジャーナル化について

日本手術医学会 編集委員会
委員長 長瀬 清
副委員長 水谷 光(代理)

開示すべき COI はありません

1

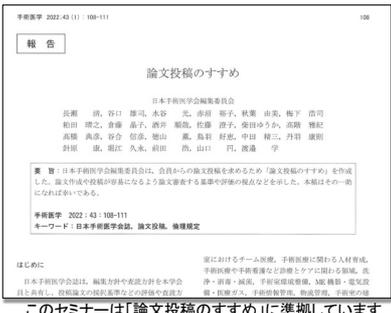
本日の目的

1. 「論文投稿のすすめ」
2. 日本手術医学会誌の役割
3. 本誌が求める論文
4. 論文の書き方
5. 電子出版になりました



このセミナーの目的は、論文投稿に関わる課題を示し、編集委員会の活動を会員の皆様と共有することです

2



このセミナーは「論文投稿のすすめ」に準拠しています
日本手術医学会誌 2022, 43 : 108-111

3

日本手術医学会誌の役割

手術医学の発展に寄与するために

1. 幅広い領域
 - 管理運営、医療安全、感染対策、チーム医療、人材育成
 - 診療とケア、洗浄・消毒・滅菌など
 - 手術医療の実践ガイドライン
2. 多職種
 - 医師、看護師、臨床工学技士、薬剤師、診療放射線技師、教官など
3. 学際的
 - 様々な学術領域を横断的に
 - 実践的な活動

論文発表を通じて学術活動を活性化するだけでなく、業務改善を含めたあらゆる視点や領域から、会員の日々の活動を支援したいと考えている

4

論文はみんなのためになります

- 読者を通じて、広く役立ちます
 - 患者
 - 実施したチーム、手術医療に関わるあらゆるスタッフ
 - 部署、病院、学会...
 - J-Stageで公開されます
- 投稿は、特別な誰かではなく、誰でもできます
- 気後れせず挑戦を(私たち編集委員会もサポートします)
- 執筆に慣れていなければ、近くの医師に手伝いをお願いしてください
- 論文が掲載されると、日本中で読まれ、誰もが検索する文献になります
- 学会発表だけでは後に残りません

（注）
- 業の上の人だけが投稿するのではない
- 投稿に慣れた医師
- 医中誌

5

特に重要と考える領域

- 手術医療が成立するために、将来性を担保するために、求められる3つの領域
 - 医療安全
 - 感染対策
 - 人材育成、教育
- これらの領域の論文は、高く評価します

手術医学領域の論文は、医療安全や感染対策が目的のことが多い
研究目的に設定しやすい

6

本誌が求める論文

- 新規性**
 - 現在まで明らかでなかった知見
 - オリジナリティ
- 重要性**
 - 学術的意義
 - 教育的価値
 - 再発防止策としての意義

他の雑誌と同じ
- 様々な活動における独創性**
 - 次頁以降で説明

他の雑誌と違う

7

様々な活動における独創性

- 新しい取り組み、アイデア、工夫
 - 新しい活動から得られた**成果**
- 理論は重要、しかし**実際の行動(実践)**も重要
 - 得られた成果を広く共有したい
- **手術室はアイデアや工夫の宝庫**
 - どの手術室でも、様々な取り組みが行われている
 - ちょっとした工夫には、大きな価値がある
- ぜひ日本中の手術患者のために、学会発表だけでなく論文として発表を

日々の業務 皆様の工夫を、学会発表や論文投稿につなげてください

8

7

8

様々な活動における独創性の評価：4つ

- **従来の方法と違い**が指摘できる
- その方法が**有意義**である
- 多くの施設で活用できるように、方法が**詳記**されている
- 他施設でも(誰でも)、**実施可能**な内容である

この4つの項目について、論文の中で述べて下さい

9

様々な活動における独創性 (例)

- 病棟看護師と確認する退室時チェックシートに、体温管理の申し送り事項を追加
- その結果、術中体温管理の質が向上した
 - 病棟でも温風加温装置の使用頻度が増えた
 - 術後頻脈、高血圧、患者の不快感が軽快した
 - 病棟で術直後の体温測定回数が増えた
 - 病棟看護記録にシパリングの観察項目を追加した
- 測定すべき対象を工夫すると、研究の意義が向上します
 - **結果が数値化**できると、**成果が具体的**になる
 - **前後比較のために、取り組みの前に測定**する

10

9

10

様々な活動における独創性 (例)

- 術式の手順書の管理を改善した
 - 準備物品、必要な知識、参考図書
 - 担当者と管理責任者
 - 器械出しの手順や外回りの役割
 - 多職種との関わり
- 改訂日と担当者が明記された、改訂回数が増えた
- 手順書が扱う項目数が増えた
- 看護師だけでなく、外科医や麻酔科医と共有した
- 医師ごとに器械出し手順のバラツキがなくなった
- **質的改善では、アンケートを併用するの一法です**
 - 改善の目的に沿って項目作成を

11

最近、本誌に掲載された論文のタイトル (看護に関わる論文)

- 非観血的血圧測定におけるマンシェットのチューブはどちらに向けても値は同じである
- 当院独自の大量出血アルゴリズム作成 周麻酔期看護師による医療安全への貢献
- 術前訪問時に使用するパンフレットの改訂が及ぼす患者満足度調査への影響
- 手術終了直後の皮膚損傷の現状と分析 皮膚損傷報告制度が手術患者の褥瘡予防にもたらした効果
- 器械出し看護師の手術直前準備におけるタブレット使用の有効性
- 腹臥位手術における顔面の体圧と皮膚トラブル発生の関連性について
- 不必要な肌露出を予防するために考案した手術用肌掛けの効果
- 手術室看護師の手指衛生遵守率の実態と遵守率向上のための取り組み

12

11

12

研究だけでなく症例報告も歓迎します

- 看護領域では見かけないかもしれないが
- 医師は書いている
- 研究より書きやすい
- XX歳女性 YYの診断でZZの手術が予定された
- こんなことに困ったのだが、こんな工夫をした
- うまくいった...これがよかったと考える
- うまくいかなかった...あれが悪かったと考える

13

忙しくて書く時間がない

私的提案

- 書きやすいところから書き始める...方法、表、
- 下書きメモとして、文章メチクチャでもいから、とりあえず書き残す
- 10分だけ書いてみる...毎日
- ふと気がついた文章はスマホに残す
- 下書きメモを継ぎ接ぎして練り直す
- 一流誌の似たような研究の書き振りを真似る...そのままは盗用
- 生成AIに頼らない
- 仕事帰りにどこかに寄り道して座って書く...15分だけ
仕事中に時間ないし、帰宅してもそんな時間ないのなら

14

15

他の雑誌と違う

16

投稿規定、チェックリスト

他の雑誌と同じ

- 投稿規程が、電子ジャーナル化により変更
- 著者全員の利益相反COIの申告を求める
- 倫理審査委員会の承認番号を記載
- 投稿前に、投稿規定とチェックリストを確認
- 引用文献は正確に:邦文雑誌は正式名称で
- 掲載カテゴリ(総説、原著、報告、解説)は編集委員会で判断
- 抽象的や一般的な論文名は好ましくないので、論文の内容がわかるよう具体的に

17

今回の発表を投稿して下さい

- 研究計画を立てる
- 倫理審査委員会で承認
- 研究を実施
- 結果をまとめる
- 抄録を作成
 - はじめに、方法、結果、結論、図表
- 学会発表
- 論文を作成
 - はじめに、方法、結果、考察、結論、図表
- 考察がポイントになります

学会発表

論文発表

18

コツ1：目的を明確に具体的に1つだけに

- 何のための研究？
- × 術前管理チームにおける薬剤師の活動を評価（抽象的すぎる）
 - 医療安全の視点から
 - 多職種の視点から
- 入院時に内服薬をチェックし、主治医への伝え方を標準化
- 内服薬の休薬忘れて手術が延期された症例を調査
- 休薬チェックリストを作成し、麻酔科医と共有

19

19

コツ1：目的を明確に1つだけに

- 目的があいまいだと「とりあえずやってみた」研究に
- 「こんなデータがあるから発表」という後付けの目的は理解されない
- あれもこれも欲張らず、データを切り捨てて目的を絞る
- カタカナ - ナントカ理論/分類/説... 不要

看護研究に多い

20

20

倫理規定について

他の雑誌と同じ

- 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」厚労省（2023年改訂）
- 研究開始前に倫理審査委員会に諮り承認
 - 倫理審査委員会に研究計画書を提出
 - 論文投稿には承認番号が必須
- 倫理審査が必要な研究
 - 患者から得られたデータを用いた研究
 - 患者から間接的に得られたデータを用いた研究（例）褥瘡発生件数、インシデント報告用いた研究
 - オプトアウトでは、病院HPなどに掲示があること

21

21

倫理審査委員会を必要としない研究

他の雑誌と同じ

- 症例報告
- 医療機器や模型などを対象とした研究
- 個人情報を含まないアンケート調査
- 手術件数など医療機関が公開した数値を利用した研究
- 業務実態を対象とした評価、業務に関する指標、教育や教育到達度、アンケートを活用した業務改善を目的とする評価に関する研究や報告
- 判断が難しい研究もあるので最終的には編集委員会で判断

22

22

倫理的に問題となるケース

他の雑誌と同じ

- 必要な開示が行われていない
- 「倫理的な配慮を行った」と書かれているが倫理審査委員会の承認を得ていない
- 類似する複数の研究が混ざっている
- 研究の種別が投稿内容と異なる
- 介入していないが複数例（10例以上）を対象とする詳細な検討（統計）を加えた（⇒人を対象とする後ろ向き研究とみなす）
- 論文名、抄録、本文、図表に、個人を特定できる内容が含まれる
- 二重投稿（特定の条件のみで認められる）
- 利益相反があるのに COI を開示しない

23

23

コツ2：最も大切な結果は何か？

- 最も大切な結果である**主要評価項目（1つだけ）**を決めてから研究を始める
- その他の評価項目は、**副次評価項目**とする
- 【例】新しいスリッパは足のむくみが減って器械出しが楽になるかも：従来のと比較
 - 体重変化、快適感、ふくらはぎの周囲径、ふとももの周囲径、足の長さ、本人の疲労度、足の血色、食欲や睡眠の質...
 - たくさん比較し、どれかが有意差があればよいという統計は誤り
- 研究目的と方法が合理的であれば、**有意差がないという理由で不掲載はない**

24

24

コツ3：結果を明確に

- 方法の選び方も重要
 - 結果を数値で表現できる方法を考える
 - 測定できる対象を選ぶ
 - 何と何を比較するか、対象を決める
 - あれもこれも欲張らずに、データを切り捨てて対象を絞る
- 「手術室退室時のチェックリストを作成した」では、結果にはならない
 - 病棟、ICUへの申し送り事項
 - 確認事項：標本、麻薬、同意書、持参品など
 - 問題事例の件数、申し送り時間、担当者の評価
 - 扱う項目数、書類の枚数
 - 削減した手順や用紙の管理
 - 付随する業務が減ったのか

25

25

統計学的な事項

- 有効数字の配慮
 - 身長 157 cm、体重 43.0 kg、BMI 17.4
- 統計を繰り返すのは好ましくありません
 - 特に後ろ向き研究
 - 比較する項目がたくさんある場合は、最初に**主要評価項目**を決めてください
- 後ろ向きデータを活用した研究
 - 多変量解析：重回帰分析(多重線形回帰分析)を依頼しています
 - バイアスが入るため、Student's t-test や ANOVA は好ましくない
- 連続変数と順序変数の区別

26

26

量的研究と質的研究

- 量的研究：帰無仮説を統計学も使って検証
- 質的研究：数を用いて評価しない質的对象を扱う
 - いずれの研究も評価する基準や評価方法は同じ
- 質的研究は、
 - 統計学的手法は必ずしも必要としない
 - 内容の客観性を求める
 - 結果の蓋然性も説明する
 - 文字数が多くなりかちなのは許容
 - 質的研究でしか明らかにできない対象がある
 - 量的研究も質的研究も等しく重要

看護研究に多い

27

27

コツ4：図表の投稿

- 学会発表のスライドは、投稿に使えません
 - 2025年から電子ジャーナルなのでカラー掲載は無料
 - 図と表は1つずつ番号を振り、1ファイルに1つずつ
 - 投稿用に修正：飾りや文字装飾はしない
 - 図表内の文字はそのまま印刷されるので文字のフォントや大きさを意識
 - 投稿規定を改訂しました
- 表の作り方
 - 横線だけで表現してください(縦線は用いない方が美しい)

28

28

表1 広島で行ってみたいところ

	平和記念公園	宮島厳島神社	マツダスタジアム	しまなみ海道
10代	6	3	13	3
20代	3	4	7	2
30代	6	2	3	9
40代	9	10	16	4
50代	5	14	4	16
合計	29	33	43	34

横線だけで表現すると美しくなる
このようなコツは成書にいろいろとまとめられている

29

29

表1 やかましい外科医は腕が悪いか

	腕が悪い	どちらでもない	腕がいい	計
やかましい	24	11	3	38
どちらでもない	4	35	29	68
静か	5	19	28	52
計	33	65	60	158

p<0.05

表1 やかましい外科医は腕が悪いか

	腕が悪い	どちらでもない	腕がいい	計
やかましい	24	11	3	38
どちらでもない	4	35	29	68
静か	5	19	28	52
計	33	65	60	158

p<0.05

30

30

査読結果のレターを作成しています

- 論文修正を依頼する際に、委員長がレターを添付
- 査読者の視点と著者の視点をすり合わせるため
- 読者の視点に配慮するため
- 論文の価値を高めるため
 - 手術医学の視点
 - 医療安全、感染対策、人材育成の視点
- 時にはzoomで、委員長が著者と面談します
- 査読結果等に疑問がある場合は、学会事務局までお問合せを

他の雑誌と同じ

他の雑誌と違う

37

37

投稿と入会をお待ちしています

- 編集委員会は、素敵な日本手術医学会誌になるように努力しています
- 学会発表後は、ぜひ投稿してください
- 研究の成果を広く共有してください
- 日本手術医学会の会員になってください
 - 年3冊をすぐに読めます
 - 過去の論文をすべて読めます
 - 投稿論文だけでなく特集企画も楽しみにして下さい
 - 投稿できるのは会員だけです
 - 総会の抄録集が届きます

38

38

これまでの特集企画

- 2021年 Withコロナにおける手術医学
- 2021年 手術部における事業継続計画 (BCP : Business Continuity Plan)
- 2022年 手術医療のタスクシフトを担う周術期チームのダイバーシティ
- 2022年 DX (デジタルトランスフォーメーション) 時代の手術室教育
- 2023年 効率化と質向上を目指した術前外来 up-to-date
- 2024年 更なるチーム医療の進化と深化
- 2024年 手術室の働き方改革を考える
- 2025年 医療プロフェッショナルの実践力を磨くためのシミュレーション教育の魅力
- 2025年 12月発刊予定: リスクマネジメントの取組み — 手術医学を中心に

39

39

電子出版となりました

- 2025年から
- 冊子体は送付しません
- 印刷代と発送代を節約できます
- 制作費用は変わりません
- 他誌も多くは電子出版です
- 総会の抄録集は冊子体で継続して送付します

40

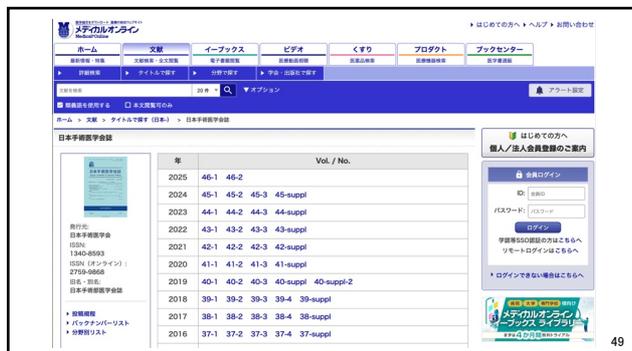
40

41

41

42

42



49



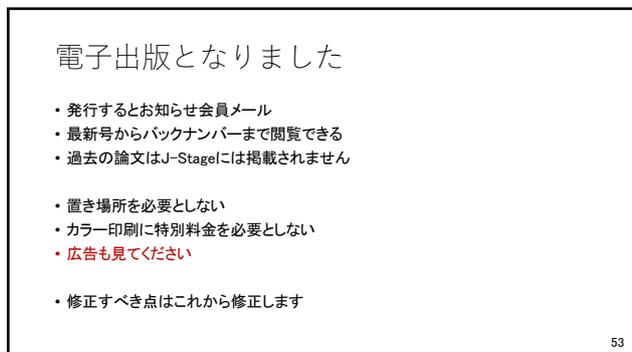
50



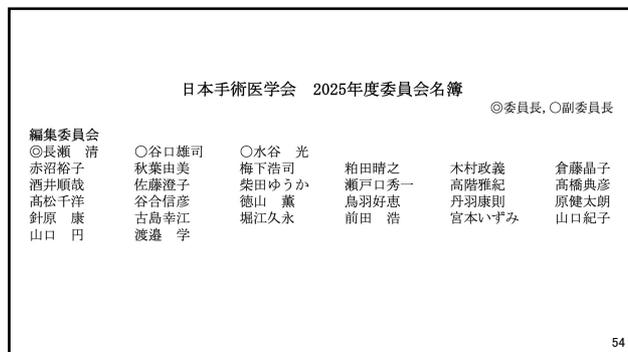
51



52



53



54